

Namaste

お釈迦様の ほほえみ



13

時宗布教伝道研究所員 小田 義宗

さて今回は仏跡参拝地の各所に点在した「ストゥーパ」に焦点を当ててお話ししたいと思います。ところでこの仏跡参拝記ではこれまで何度も「ストゥーパ」という言葉が登場してきましたが、その度にそれを「お墓」という簡単な説明にとどめてきました。しかし今回は改めてそれについて、私がいかに感じてきた中で感じたものを解説してみたいと思います。

まずストゥーパとは、お釈迦



様が茶毘に付された後、そのご遺骨（仏舍利）を八つに分骨して各所に納めた墓碑が起源です。当初はこの八つであったストゥーパですが、お釈迦様の涅槃から百年後の頃に、仏教を篤く信奉したアショーカ王がその内の七ヶ所を開いて仏舍利を取り出し、それらを再分骨し、国内外の各要所にお祀りし直したため、各地にたくさんのお釈迦様が建立されることになりました。さらにその後、お釈迦様だけでなく、その高弟や後世の高僧のお墓として、またお釈迦様を顕彰するための建造物としても作られるようになりました。ちなみに現在のストゥーパは日本の古墳のような土盛り形状のものが多くですが、これは長い歴史の中で様々な理由か

ら建造部が崩壊し、埋没していったことが原因で、最初からの状態ではありません。ですから右ページ写真のストゥーパも小山のようになっていたものが発掘され、現在の姿まで修復されたものです。これと同様に一口にストゥーパと言っても、その規模や形状は場所によってさまざまで未解明な部分がたくさんあります。

またこの「お釈迦様のご遺骨を分骨し、埋葬して塔を建てる」という行為は、その後中国を経て、日本にも伝播してきます。現在の日本各地で見られる五重塔や多宝塔と呼ばれる建物がそれで、そこにはやはりお釈迦様のご遺骨として聖地で産出される寶石や、経典などが埋葬されています。また皆さんが



「お塔婆」と呼んでいる法事などで作成する木板もこのストゥーパを起源としており、皆さんは法事の際に亡き故人のために仏塔を建てて供養していることになるのです。

ところで私がインドにいた二週間の間、本当にたくさんのお釈迦様に参拝しましたが、特に感慨深かった聖地がありましたが、それは先ほども少し触れましたが、お釈迦様のご遺骨を八つに分けた中で唯一つ採掘が行われなかった『ラーマグラマ（上写真）です。ここは現在でも未発掘で写真のように小山の状態のままです。そのため、まぎれもなくお釈迦様のご遺骨が二千五百年前のまま静かに眠っておられる場所といえるのです。この地でお釈迦様の『お墓参り』ができた満足感はいまだに忘れがたいもので、このインド研修の中で私の最高の思い出になっています。